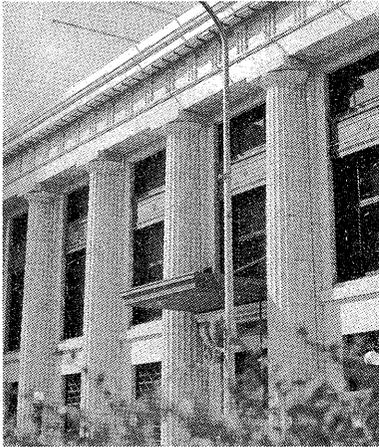


神戸市立博物館



神戸市の中心街三宮・元町から海岸寄りに数分、かつての外人居留地的一かくに昨年開館を迎えたばかりである。同市の国際港湾都市という性格と収蔵資料の特色を生かすため、「国際文化交流—東西文化の接触と変容」というメインテーマに沿って館の諸活動を展開するという。

開館を飾る第一回の特別展示「海のシルクロード」も海路による東西文化の交流のあとをたどるものであった。

市立南蛮美術館、同考古館をひきついで収蔵資料は豊富、加えて開館直後の12月には、市内在住の船舶工学者で古地図の蒐集でも高名な南波松太郎氏が日本一といわれるコレクションの大部分、約4,000点を寄贈され話題となった。

南蛮美術館は池長孟（1891—1955）氏によるいわゆる南蛮紅毛美術の系統的コレクション約4,500点で、これもまた同氏より1951年に神戸市に一括寄贈されたも

のである。種子島以来の日本の美術にあらわれた外国の影響を追求する一大コレクションで、南蛮屏風、初期洋風画など世に知られた貴重資料も枚挙にいとまがない。

考古館からは灘区桜ヶ丘出土の銅鐸・銅戈（国宝）を中心に、市内各地の出土品の数々を受けついで。

南波コレクションは、一点豪華主義でなく広範囲に多数の資料を集めて比較研究の資料とすることが目標であったというが、伊能忠敬の『日本輿地図彙』など貴重な図も多く含まれている。

開館後なお日も浅い本年2月、南波氏の快挙を記念する特別展示「古地図の世界—南波松太郎氏収集」の見学かたがた同館を訪れた。

正面の壁に6本の円柱を配した壮麗な建物は旧横浜正金銀行、昭和初期石造建築の保存をかねて博物館に衣更えしたという。入口が銀行の面影をとどめてやや閉鎖的に感じられるだけに、内部の広々とした吹き抜けの中央ホールが印象的で、建物全体に昔ながらの余裕が漂っている。

展示の柱は神戸の移り変りに焦点をあてつつ日本と諸外国との交流のありさまを示す常設展示第1～5室と、南蛮美術館の名を残した展示室での南蛮紅毛美術品の展示で、残る二つの展示室で随時行われる企画展示（収蔵資料中心）、特別展示（外部資料も含む大規模展示）がこれらをおぎない、角度をかえて深めていく。

（61ページへ続く）

吉文字屋市兵衛 江戸 同次郎兵衛 明和7刊
〈198-36〉

139 富士見十三州輿地之全図 秋山永年撰 江
戸 〈ちニ-11〉

140 経史証類大観本草 東都 并河善六等 安
永4刊 〈198-26〉

141 〔紹興校定〕経史証類備急本草 写 〈200
-52〉

142 神農本草経 森立之編 嘉永7刊 〈198-29〉
参考資料 本草経集註〔稿〕 写 〈213-308〉

143 毛詩名物図攷 岡元鳳 平安 北村四郎兵
衛等 天明5刊 〈121-62〉

144 毛詩名物質疑 井岡洸 写 〈203-19〉

145 怡顔斎介品 松岡玄達 皇都 野田藤八等
宝暦8刊 〈197-192〉

146 千代見草 西京園丁 京師 人見喜兵衛等
元禄12序刊 〈197-235〉

147 広韻 陳彭年等 〈WA35-3〉

148 増広龍龕手鑑 行均撰 古活字版 〈WA7-
111〉

149 拍案驚奇 凌濛初 〈別63111〉

150 平妖伝 羅貫中原作 馮夢龍補 前6冊刊

本・嘉慶17 後6冊写本・天保7 〈別図13-46〉

151 白氏文集 那波道円校刊 元和4刊 古活字
版 〈WA7-76〉

152 史記 司馬遷著 裴駰集解 司馬貞索隱
張守節正義 古活字版 〈WA7-98〉

153 大智度論 龍樹著 鳩摩羅什訳 寛永17天
海刊 古活字版 〈WA7-108〉

特別出品 天海版木活字 東叡山寛永寺蔵

154 大唐六典 宝曆3 写 〈わ322-52〉

155 五雜俎 謝肇淛撰 寛文元刊 〈119-8〉

156 思ひよる日 古筆了伴著 榊原篤謙校 嘉
永元刊 〈198-46〉

157 師範
学校 改正読本字引 榊原芳野編 青藜閣
明治9刊 〈特33-813〉

158 三国相伝陰陽輯轄箋内伝金烏玉兔集 中
野市右衛門 寛永9刊 〈ろ-14〉

なお、詳細な解題つき展示会目録は、中央印刷
株式会社で取扱っています。

所在地 (〒104)東京都中央区八丁堀3-17-12
電話 03(551)7035(代) 頒価850円

.....
(56ページより続く)

「古地図の世界」は特別展示の第2回目
で、広範な受贈地図のうち日本図、道中
図、世界図の三分野から選ばれた地図111
点が、その変遷を追ってわかりやすく展
示され、見学者を集めていた。

このほか、ギャラリー、講堂、中央ホー
ルなどを活用した企画も多く、折々の展

示資料の写真が表紙を飾るカラフルな広
報誌「博物館だより」からその様子をうか
がうことができる。

恵まれた資料を背景に、新設の意気高
い同館の活動はひきつづき各方面の注目
を集めそうである。

(地図室 鈴木純子)